

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

豊かな人間性と科学する心を育てる。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

本校の総合的な探究の時間を通して、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。さらに、2年次での課題研究につなげる。
(1) 【知識及び技能】
① 人間としての在り方や生き方など自己理解を深める。
② 探究活動の過程を学び、課題解決に向け適切に情報を得る。
(2) 【思考力・判断力・表現力等】
① 自己と向き合い、主体的な判断で行動できる。
② 調べたことを分かりやすく伝えるための方法を考え、工夫してまとめ、表現することができる。
(3) 【学びに向かう力、人間性等】
① 他者とともによりよく生きようとする。
② 進んで探究活動に関わり、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重できる。

総合的な探究の時間の学習評価

○ 信頼される評価であること。
○ 生徒の成長を多面的に捉えるために、多様な評価方法や評価者による評価を組み合わせること。
○ 学習状況の結果だけでなく、過程も評価すること。
信頼される評価
授業担当者会議で学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
① 計画書、中間発表でのパフォーマンス、作成した資料、振り返りシート等を評価の対象とする。
② 中間発表での個人振り返りシートを探究過程の評価として加味する。

生徒の実態

- ・ 純朴で、素直な性格の生徒が多い
・ 服装面でややルーズな生徒もいるが、挨拶が良い
・ 比較的落ち着いた学校生活を送っている生徒が多く、学校の雰囲気は和やかな感じである
・ 生徒の中には、友人とうまく交流をもてない生徒もいるが問題にはなっていない

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

障害の状態や特性等に応じた指導上の配慮の充実及びICT機器の活用

目指す生徒の姿

- ☆ 高校生としての基礎・基本の学力をもつ
☆ 科学や技術、未来への好奇心や探究心をもつ
☆ 明るく挨拶ができ、素直で元気である
☆ 郷土を愛する心をもつ
☆ グローバルな視点をもつ
☆ 自ら考え行動し、進むべき進路を実現できる
☆ ルールやマナーを守る
☆ 社会に貢献する姿勢をもつ
☆ どんな世代とでも分け隔て無く交流できる

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1年次
4~7月: 課題への取り組み
(1) 知識及び技能
人間としての在り方や生き方など自己理解を深める。
(2) 思考力・判断力・表現力等
自己と向き合い、主体的な判断で行動できる。
(3) 学びに向かう力、人間性等
自立した人間として他者と共によりよく生きようとする。
9~3月: 偉人探究
(1) 知識及び技能
課題の解決に向けて、適切に情報を収集できる。
(2) 思考力・判断力・表現力等
分かりやすく伝えるための方法を考え、構成を工夫してまとめ、表現することができる。
(3) 学びに向かう力、人間性等
進んで探究活動に関わることができ、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重できる。
4~3月: 科学国際セミナー
(1) 知識及び技能
未来社会の課題に対して、適切な情報を収集できる。
(2) 思考力・判断力・表現力等
課題解決に向けて自分なりの考えや意見を表現できる。
(3) 学びに向かう力、人間性等
講演や体験に積極的に関わり、先進的な知識・技術を興味・関心をもって理解しようとする。

学習活動、指導方法等

- 1年次のみ1単位で実施(残りの2単位分は課題研究で代替)
1年次を2つの時期に区分けし、【課題への取り組み】、【偉人探究】を学ぶ。
【探究活動へのアプローチ】
研究企画部作成の『探究ノート』及びプリントを使用
(1) 10の内容を実施 → 詳しくは年間指導計画を参照のこと。
(2) 各時間内完結型
(3) 整理・分析・まとめ・表現を見る。
(4) 一斉またはグループワークとし、グループ内の発表を行う。
【偉人探究】
研究企画部作成の『探究ノート』を使用
(1) 探究活動の方法を学ぶ。【探】
(2) サイエンス分野から興味がある偉人を選ぶ。【探】
(3) その偉人の性格や経歴・功績を調べる【探】
(4) 集めた情報をまとめる。【探】
(5) もしも、偉人が生きていたら、現代の社会問題をどう解決するか想像してみる。【探】
(6) 発表会を実施し、他者からの助言や質問等を参考にこれまでの探究内容を振り返り、次につなげる。(PDCA)【探】

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- (1) 研究企画部: 新学習指導要領の改訂に向けた動向に注視しつつ、内容や評価等の改善に適宜取り組む。学年担当や授業担当者からのフィードバックを反映する。2年次の課題研究に結びつくように、内容や指導方法について反省・改善をする。
(2) 授業担当者ミーティング: 指導方法や評価観点、進捗状況等について適宜情報を共有し改善する。
(3) 総合的な探究の時間研修会: 転入者や新規採用者に研修を実施し、本校の総合的な探究の時間の目標や育てようとする資質・能力、指導方法等についてレクチャーをする。
(4) 学校行事や進路活動、チャレンジプロジェクト等に接続: 課題研究(2年次)、文化祭等の諸学校行事につなげる。地域企業、筑波大学、産業技術総合研究所などと連携する。